

履修登録の方法について

※主に1年生の時間割の組み方について放送学科を例に説明しています。

大阪芸術大学・教務課

履修登録の流れについて

時間割の作成（各自）

各自で学生便覧・時間割等必要な書類を確認し、時間割を作成する

履修登録（予備登録）

期間：4/17～20 発表4/22

抽選が必要な科目を希望する場合はUNIPAで登録する（履修登録可能者は発表時UNIPAに表示される）

履修登録（本登録）

（期間：4/23～27）

UNIPAで各自が作成した時間割の履修登録を行い、履修エラーの確認を行う。また進級・卒業見込を確認する

訂正期間

（期間：5/14～15）

履修削除のみ可能。削除した場合再度履修エラーの確認、進級・卒業見込を確認する

履修登録手続き完了

時間割作成に必要なこと①

**入学年の学生便覧に掲載されている学修要項の
学科別履修案内の内容についてまず理解する必
要があります。**

●卒業所要単位表

●進級要件表

卒業所要単位表

(例) 放送学科B20生の場合

放送学科卒業所要単位表 卒業までの4年間で修得すべき単位の内訳

		制作コース (BP)	アナウンス コース(AN)	広告コース (AD)	声優コース (VA)
教養科目		英語系科目(2科目4単位)を含み、合計20単位以上			
専門教育科目	必須科目	38単位	46単位	50単位	56単位
	選択必須科目	34単位以上	30単位以上	26単位以上	20単位以上
	計	72単位以上	76単位以上		
自由選択科目 (上記以外の教養科目、専門教育 科目、あるいは専門関連科目より)		32単位以上	28単位以上		
合計		124単位以上			

進級要件表

(例) 放送学科の場合

放送学科進級要件表

進級するために必ず必要な要件

	1年次→2年次	2年次→3年次	3年次→4年次
制作 (BP)	技術基礎実習 (4単位) 文章・音声表現演習 (2単位) 上記2科目6単位を修得済みのこと 上記を含み教養科目、専門教育科目、専門関連科目すべてをあわせて計30単位以上修得のこと	放送概論 (4単位) 放送の歴史 (4単位) 上記2科目8単位を修得済のこと 上記を含み教養科目、専門教育科目、専門関連科目計60単位以上修得のこと 演習希望届を指定期間内に提出すること	演習Ⅰ (2単位) 上記1科目2単位を修得済のこと 上記を含み教養科目、専門教育科目、専門関連科目計90単位以上修得済みのこと
アナウンス (AN)			
広告 (AD)		アクセントの基礎 (2単位) ナレーション実習 (2単位) レコーディング実習 (4単位) 上記3科目8単位修得済みのこと 上記を含み教養科目、専門教育科目、専門関連科目計60単位以上修得済みのこと	演技表現技法 (2単位) アフレコ実習Ⅰ (2単位) アフレコ実習Ⅱ (2単位) 上記3科目6単位を修得済みのこと 上記を含み教養科目、専門教育科目、専門関連科目計90単位以上を修得のこと
声優 (VA)			

時間割作成の際は、一番初めに書き込むのがこれらの科目です。

時間割作成に必要なこと②

- 進級要件単位数 進級要件科目
- 履修上限単位数
- 専門教育科目表の見方
- 必須科目、選択必須科目、選択科目
- 取得順位
- 自由選択科目

特に「自由選択科目」に注意。

専門教育科目表の見方

(例) 放送学科 (制作コース) の場合 専門教育科目表

	形態	科 目		取得 順位	配当年次別単位数					備 考
					1	2	3	4	計	
必須科目	講義	放送概論 放送の歴史 放送技術概論 放送番組論	1年生で履修可能な科目	→	4				4	
					4				4	
					4				4	
					4				4	
	演習	文章・音声表現演習 演習Ⅰ 演習Ⅱ		AⅠ BⅠ BⅡ	2		2	2	2	
	実習	技術基礎実習 制作実習Ⅰ 制作実習Ⅱ		CⅠ CⅡ CⅢ	4	4	4	4	4	
	卒	卒業制作・論文		BⅡ			4	4		
	計				22	4	6	6	38	
選択必須	講義	マスコミュニケーション概論 広告概論 アナウンス概論 声優学概論 漫画・アニメーションの歴史 日本映画の歴史 外国映画の歴史 マーケティング 広告の企画と表現 ...			4 4 4 4 4 4 4 4	4 4			4 4 4 4 4 4 4 4	

必須・選択必須・選択の違い

●必須科目

学科のカリキュラムの骨格となる科目。
卒業までに必ず単位を修得しなければならない科目。
(重要度：高)

●選択必須科目

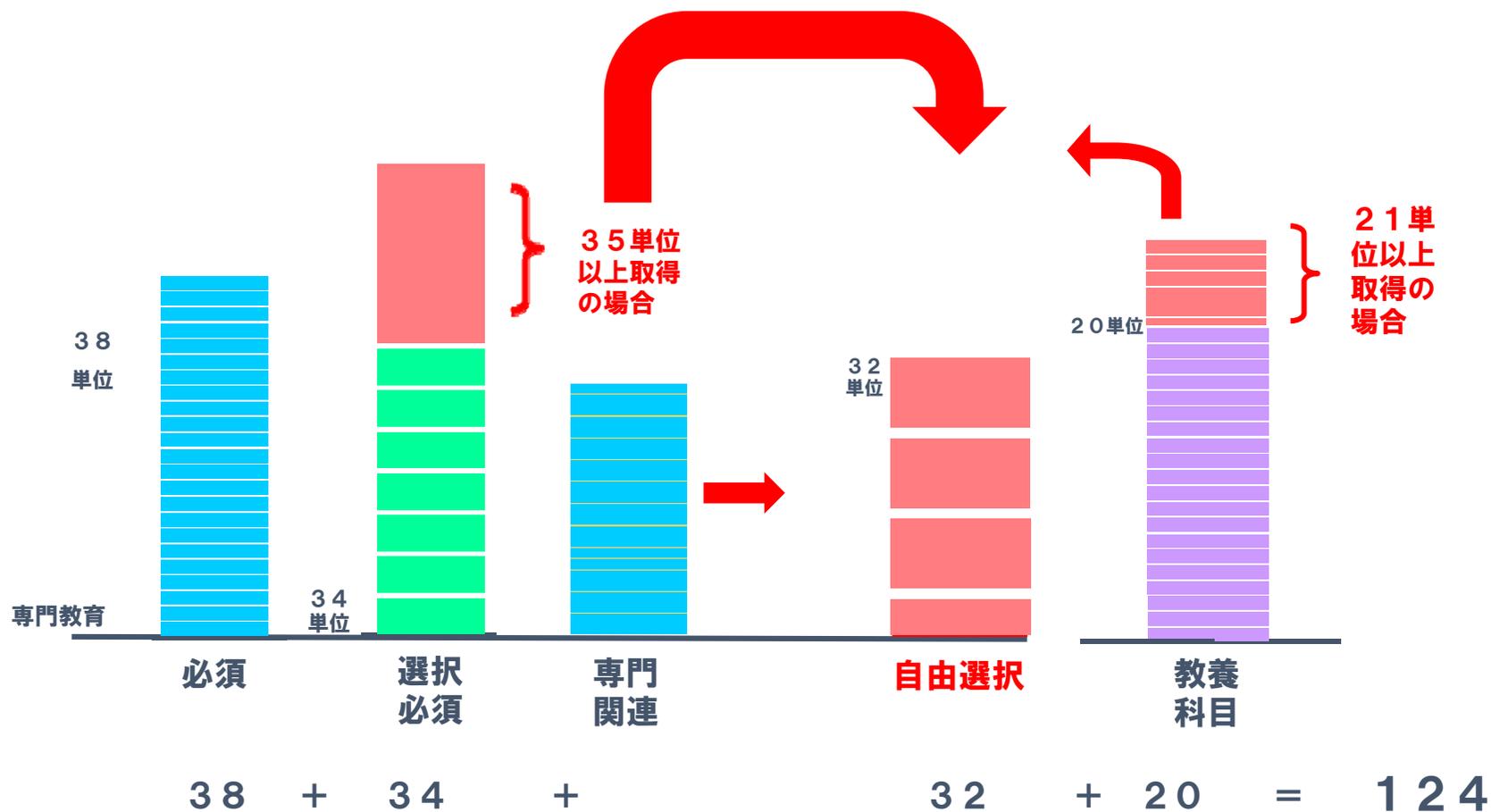
「ある範囲から○単位を修得すること」のように、特定の科目ではなく修得する単位数に条件が設定されている科目群。自分の学びたい内容にあわせて選択の自由度がある。設定された単位数を超えて修得した単位数は自由選択として数えることができる。

●選択科目

自分の学びにあわせて履修してよい科目群。単位の修得は必須ではないが、修得した単位数は自由選択として数えることができる。

自由選択科目

放送学科（制作コース）の場合



時間割作成の大まかな手順

- ①進級要件科目
- ②必須科目
- ③（準）必須科目
- ④その他自分が履修したい科目
- ⑤合計して、履修上限単位を超えないこと。（図書館概論は別）

時間割作成 手順①～②

①進級要件科目

指定された科目の単位を修得しないと進級できない科目
各学科・コース毎に異なるので、必ず学生便覧の進級要件表を確認
すること

②必須科目

卒業するために必ず修得しないとイケない科目
各学科・コース毎に異なるので、必ず学生便覧の専門教育科目表を
確認すること

時間割作成 手順③

③（準）必須科目※

2年次以降にコースが確定しそのコースで必須となる科目や、コース選択の際修得済みが条件になる科目、選択必須科目でいずれ必須科目扱いになるものなど。

（例）放送学科の場合

制作コースに行きたい場合：放送番組論

アナウンスコースに行きたい場合：放送番組論とアナウンス概論

広告コース行きたい場合：広告概論

声優コースに行きたい場合：声優学概論

※ 「（準）必須科目」は便宜上使用している言葉です。

時間割作成 手順④

④その他自分が履修したい科目

①～④までの作業で、本当に空いている時間帯を使って履修が可能な科目を登録する。

・月曜から土曜までの1～5時限までを全て埋める必要はない。

・受講人数に限定がある、もしくは学科によっては開講対象ではない科目もあるので、全てが履修可能な訳ではない。

準備学修や復習に必要な時間が履修科目数に比例して多くなるので全体としてゆとりをもった履修計画が必要。

履修科目数が増えれば、当然提出課題やレポート試験などの数も増える。前期末、学年末に自分でコントロールできなくなってその履修を捨て(放棄)た場合、GPAポイントが下がります。途中で「こんな授業だと思わなかった」と授業に行かなくなることはないようにシラバスを活用して慎重な科目選びを心がける事。

●履修上限単位 進級要件

●教養科目、必須科目、選択必須科目、専門関連科目を含んで、履修上限単位までになるように時間割を組むこと。

なお、次の年に2年生になるには進級要件に記載の単位を修得しなければならない。

進級要件の科目を修得していても進級要件に必要な単位を修得していなければ、2年生になれない。2年生になれなければ、卒業に**5年**かかることとなる。

●2年生になったら1年次配当科目と2年次配当科目の両方から履修できるので、今年取れなかったら来年履修すればよい。

資格課程の履修を計画する場合

資格課程は基本的に2年生からの履修ですが、1年次で修得することが条件になっている科目、あるいは修得することが望ましい科目があります。

- 教職課程** 美術・デザイン・文芸・工芸・音楽・演奏・初等芸術教育各学科のみ
2年生で教職課程の履修を始めるためには1年生で教養科目の「教職概論」を修得していないと教職課程を履修できない。（初等芸術教育学科を除く）
- 学芸員課程** 1年で教養科目の「生涯学習論」を修得することが望ましい。
- 司書課程** 2年生で司書課程の履修を始めるためには1年生で資格科目の「図書館概論」を修得していないと教職課程を履修できない「図書館概論」は資格科目のため履修制限単位に含まれない。

各資格課程については必ず学生便覧で詳細を確認のこと。